

6年 郷土学習資料



府内から世界へ 大友宗麟



大分市教育委員会

6年生のみなさんへ

今からおよそ450年前、豊後国(大分県)は戦国大名の大友宗麟が治めていました。その中心にあった「府内のまち」(大分市)は、世界中から人や物が訪れる、たいへんにぎやかなところでした。

戦国時代の面影は、今も市内のさまざまな所に残っています。ふるさと大分の歴史をみなさんが身近なものに感じられるよう、大分市教育委員会では郷土学習資料として、副読本「府内から世界へ 大友宗麟」を作成し、配布しています。

この副読本をとおして、府内から世界を見ていた宗麟のすがたと、宗麟が私たちに残してきたものを知ることができるでしょう。みなさんが大分市の歴史を楽しく学ぶとともに、ふるさとを大切に思う心もち、未来の大分市を考えるきっかけとなることを期待しています。

令和7年5月1日

大分市教育委員会教育長 栗井 明彦

《 目 次 》

「大友宗麟公」の銅像

第1章 大友宗麟の国づくり

第2章 栄える府内のまち

第3章 豊後王 大友宗麟

資料1. 島津氏との決戦

資料2. 府内の人々と宗教

資料3. 府内のまち

資料4. 大友氏と大分市

資料5. 大友宗麟の生涯

ページ

1

2

4

6

8

10

12

14

16

なぜ、大分駅北口(府内中央口)駅前広場に 大友宗麟の銅像が建てられたのだろう？

JR大分駅は、仕事や買い物のほか、観光に来た人など、毎日約3万人の人々に利用されている、大分県内で一番大きな駅です。その府内中央口広場に人々を出迎えるように大きな「大友宗麟公」の銅像が建てられています。

大友宗麟とは、いったいどのような人物だったのでしょうか？

これからみんなで学習していきましょう。



広場には、宗麟に大きな影響を与えたフランシスコ・ザビエルの像も建てられています。

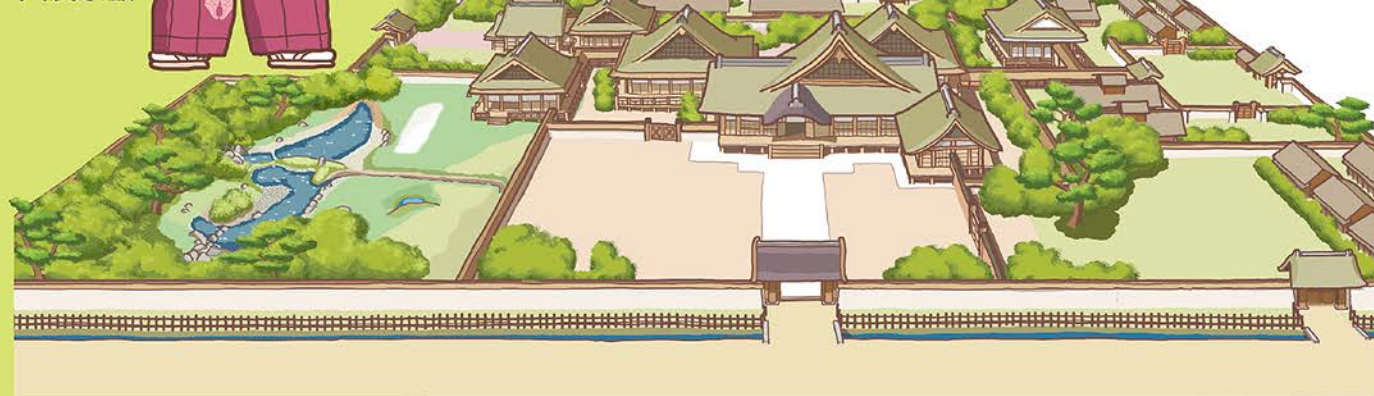


▲宗麟が奉納したかぶと
杵原八幡宮(八幡)には、ヨーロッパのかぶとに似た椎の美型のかぶとが納められています。



大友家の家紋

大友宗麟

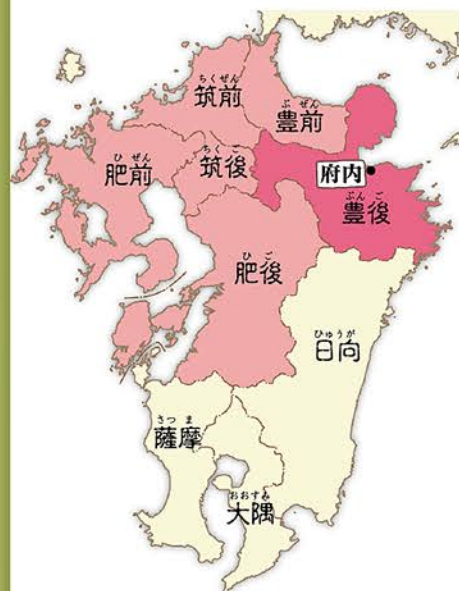


▲大友館の想像図



▲発掘された土器
儀式で使われた大量の杯。

第1章 大友宗麟の国づくり



宗麟が守護を務めた国

宗麟は、戦国時代まった
だ中の1530年、豊後の府
内(大分市)に大友家の長男
として生まれました。天下
をねらった織田信長や豊臣
秀吉とほぼ同じころです。

20歳の時に大友家をつぎ、
豊後を中心に国づくりをす
すめ、やがて九州の大部分
(9国のうち6国)を支配する
戦国大名に成長します。

広大な宗麟の館

府内のまちは南北約2.1km、東西約0.7kmの範囲に、
5000軒ほどの家々が建ち並ぶ当時九州最大級の都
市でした。

宗麟は、まちの中心にある「大友館」とよばれる
屋敷で政治をおこないました。高い土堀で囲まれた
館は、広さが一辺200mほどもあり、室町幕府の将
軍邸に負けないものでした。館の中の大きな建物で
は、一度に200人の武士が集まって、儀式がおこな
われることもありました。

強力な新兵器



大砲「国崩」
宗麟が日本で初めて
大砲を手に入れました。

宗麟ははじめ、鉄砲に目をつけましたが、戦いを
さらに有利に進めるため、ポルトガルから大砲を購
入しました。そして家来を中国に送って大砲のつく
り方を学ばせ、府内で製造させました。



▲宗麟が信長に
おくれたお盆
政秀寺(名古屋市)

信長や将軍との交流

早くから信長の実力と勢いを見抜いていた宗麟は、府内でつ
くった大砲や中国の高価なお盆
をおくっています。また信長か
らは、名馬がおくられています。

足利将軍に対しても、貿易で
手に入れた鉄砲やひょうの皮などをおくり、幕府と
のつながりを深めていきました。

盛んな南蛮貿易



当時アジアの海では、
ポルトガル人が深く貿易
に関わっていました。そ
こで宗麟は、ポルトガル
人との貿易をさかんにす
るために、国王に手紙を
送ったり、キリスト教を

保護したりしました。また自ら大型の船を造らせて、
中国や東南アジアの国々に家来や商人を送りました。

このように宗麟は、積極的に南蛮貿易をおこな
ったことで大きな利益を得るとともに、府内のまちも
栄えていきました。



※1
中国で大砲のつくり方と使い方を
学んだ宗麟は、宗麟に仕えた後、徳
川家康の家来としても活躍しました。

海外に進出する宗麟



※2 当時、南蛮人と呼ばれていたポ
ルトガル人などとの貿易をいいます。

第2章 栄える府内のまち

なんばん ぼうえき びやうぶ
南蛮貿易の屏風絵▼



宗麟が、南蛮貿易を積極的にすすめたことで、府内は、堺(大阪府)、博多(福岡県)と並ぶ日本を代表する国際貿易都市となりました。まちには外国から持ち込まれた多くの品物が集まっていました。通りにはポルトガル商人や宣教師をはじめ、中国や東南アジアの人々が行きかい、活気にあふれていました。

アジアから入ってきたもの

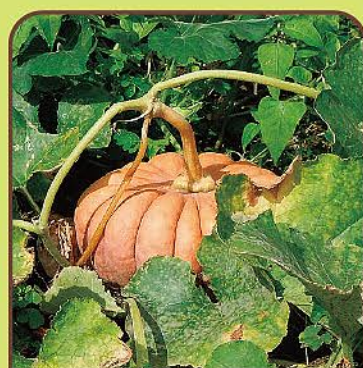
府内のまちの発掘調査では、中国や東南アジアの焼き物が見つかっています。これらの中には皿や茶わんとともに、砂糖や硝石(火薬の原料)を入れて府内に持ち込んだと考えられる大きな壺などがあります。このほかにも、絹織物や食べ物、珍しい動物などがアジアからもたらされました。



▲※1 南蛮かぼちゃ
宗麟のもとに日本で初めて「かぼちゃ」が伝えられました。かぼちゃの語源は、伝えられた国名の「カンボジア」です。



カなんさんさい づば
▲ 華南三彩壺
勝光寺(竹中)に伝わる中国の焼き物。



ヨーロッパから入ってきたもの

府内のまちには、多くの寺院がありましたが、宗麟がキリスト教を保護したことで教会も建てられました。はじめのころ、宣教師に石を投げるなどのいやがらせをする人がいましたが、宗麟は家来に命じて、彼らを守りました。

教会ではピオラやオルガンの演奏、日本人による初めての合唱や演劇もおこなわれました。

府内の人々とアルメイダ

当時の日本には、病気や貧しさから、生まれたばかりの赤ちゃんを手放す人がいました。府内にやって来た医師のアルメイダは、その姿に心を痛め、自分のお金で育児院を建てて子どもたちを育てることにしました。この育児院はその後、宗麟の援助を受けて日本初の西洋式病院(府内病院)となります。アルメイダによる日本初の外科手術と、病人やけが人を無料で助ける府内病院のうわさは、遠く京都や大阪まで広がりました。

▼ 府内病院復元模型

西洋医術発祥記念像



また府内病院の活動は、たくさんの人々のボランティアによって支えられました。このような動きも日本で最初と言われています。争いのたえない時代でしたが、府内のまちでは人々の命を懸命に救おうとする取り組みがおこなわれていたのです。

このように府内のまちには、南蛮文化が広がっていききました。



※2 当時オルガンは、日本に2台しかありませんでした。1台は宗麟、もう1台は信長が所有していました。

豊後の府内病院



手術は人々から見える所でおこなわれました。



※3 府内病院のボランティア「ミゼリコルディア(慈悲の組)」とよばれる人々は、病院で貧しい人々を救おうと、無償で病人の看護や募金活動などをおこなっていました。





▲ ザビエルの像 (大手公園)



日本に初めてキリスト教を伝えたスペインの宣教師ザビエルは、鹿児島、山口などで布教したあと、1551年に府内を訪れました。

第3章 豊後王 大友宗麟



「大友宗麟にあいさつするザビエル」

(ヴァン・ダイク 作)

ドイツの城(ヴァイセンシュタイン城)に飾られている「宗麟とザビエルの出会い」をイメージした絵で、右が宗麟(当時21歳)、左がザビエル(当時45歳)です。

有力な大名が、天下統一をめざしていた時、宗麟はアジア、そしてヨーロッパとの交流をめざしていました。

世界に目を向けた宗麟

宗麟が15歳になったころ、中国商人だけでなく、ポルトガル商人もたびたび府内を訪れるようになりました。

宗麟は、彼らの一人を3年間府内に住ませ、鉄砲や世界の国々のことをくわしく聞きました。

ザビエル府内へ

21歳になった宗麟は、豊後の国づくりのためにもっと世界の情報を手に入れようと、山口にいたザビエルを府内に招きました。宗麟はザビエルを歓迎し、様々なことを聞きました。そして府内でキリスト教

を広めることを許可しました。

ザビエルは2か月間府内で布教し、インドに旅立つことになりました。その時宗麟は、ポルトガル国王あてに「あなたの国と友好関係を結びたい」という内容の手紙を送り、交流をもとめました。

宣教師の活動

宗麟は、ザビエルのはからいで府内に来た宣教師に土地を与えました。彼らは宗麟の援助のもと、そこに教会や病院をたて、積極的に布教しました。後に、府内コレジオ(宣教師を育てるための学校)もつくり、外国人や日本人に外国語や理科、音楽などの授業をおこないました。

宗麟がキリスト教を保護したことで、府内のまちでは信者になる人が少しずつ増えていきました。そして宗麟も48歳の時、その信者の一人となり、フランシスコという名前をもらいました。

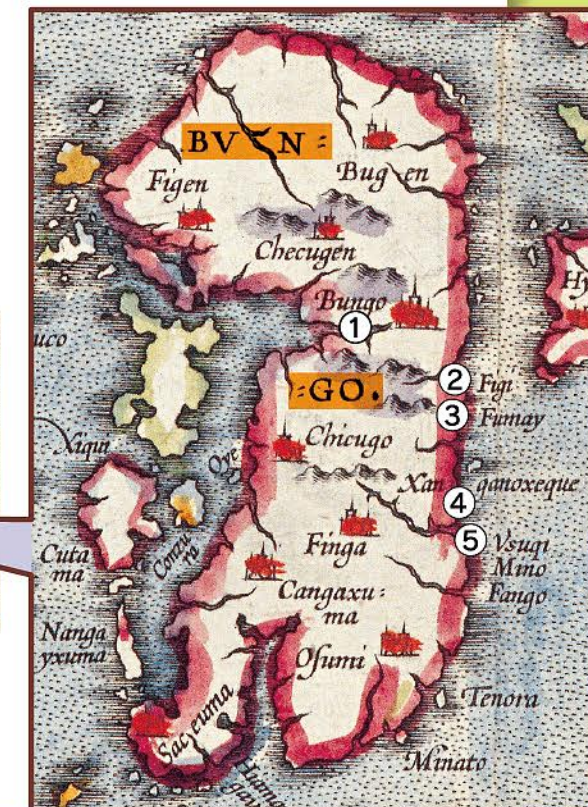
ヨーロッパにまで知られた「宗麟」

府内で活動していた宣教師フロイスは、このような宗麟の姿を「Bungo(豊後)王」としてヨーロッパに報告しました。またこのころ、宗麟たちの名前でヨーロッパに送られた少年使節が各地で大歓迎を受けたことから、「宗麟」の名前は、ますます知られるようになりました。そして九州の「豊後」も、その王が治める特別な地として紹介されました。



▲ [ティセラ日本図]

ポルトガル人のティセラが1595年ごろ、宣教師からの報告をもとに描いた日本地図で、九州を「BVNGO」と書いています。



- ① Bungo = 豊後
- ② Fige = 日出
- ③ Fumay = 府内
- ④ Xan ganoxequ = 佐賀関
- ⑤ Vsugi = 臼杵

その後、宗麟は薩摩(鹿児島県)の島津氏とのいくさに苦戦しますが、天下統一をめざす豊臣秀吉の援軍により、その危機をのりこえました。

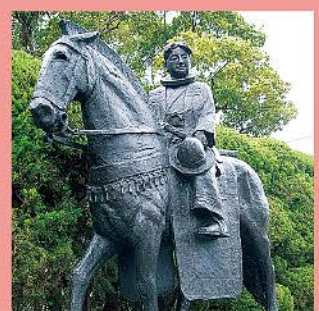
※1 フロイスが見た宗麟



宗麟は

「日本の戦国大名の中で、最も考えが深く、人徳があり、あらゆる才能に優れている」

フロイスはポルトガルの宣教師で、4年間豊後に住みました。信長や秀吉にも会っています。



▲ ※2 伊東マンショの像 (遊歩公園)

宗麟の遠い親戚にあたる伊東マンショ(13歳)は、宗麟の使いとして他の3人の少年とともにヨーロッパを訪問しました。

資料1 島津氏との決戦

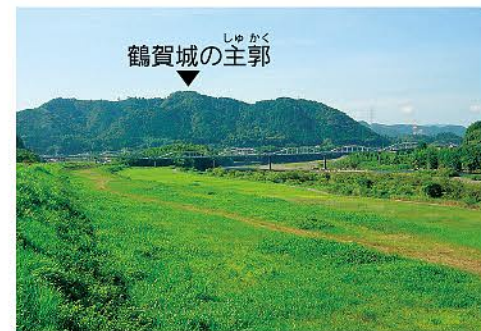
1. 島津氏との対立

薩摩と大隅(鹿児島県)をまとめ、南から勢力拡大をはかった島津氏は、しだいに大友氏と対立するようになりました。1578年、大友軍と島津軍は日向(宮崎県)の支配をめぐる激しく戦い、多くの犠牲者を出した大友軍が敗北しました。その後、勢いに乗った島津軍は、肥前の一部(佐賀県)を拠点としていた龍造寺氏を倒し、大友氏が支配していた領地に進出を始めました。

信長のあとをついで天下統一を進めていた豊臣秀吉は、大友・島津両軍に停戦を命じます。この時宗麟は、自ら大阪城へ行って秀吉と会い、停戦を受け入れました。しかし九州支配をめざす島津氏はそれを受け入れず、1586年、ついに豊後に軍を進めました。



▲ 鶴賀城跡の碑 (戸次)



▲ 大野川から見た鶴賀城



▲ 吉岡妙林尼の像 (鶴崎)

2. 鶴賀城、戸次川、鶴崎城の攻防

島津軍が豊後に侵入すると、各地で激しい戦いが始まりました。島津軍の府内への通り道にあたる戸次地区には、鶴賀城がありました。ここは大友氏の家来、利光氏の山城で、敵の侵入を防ぐ様々なしかけがつくられていました。島津軍の攻撃が始まると、城に立てこもった兵士と農民は、鉄砲や弓矢、竹やり、鎌を使って抵抗し、城を守りぬきました。

また宗麟のあとをついだ息子の義統が中心となる大友軍と、秀吉の命令で四国からかけつけた援軍は、戸次川(今の大野川)で激しく戦いました。しかし、島津軍の勢いを止めることはできず、大友軍は高崎城、そして豊前の龍王城(宇佐市)へと退きました。

一方、大友氏の家来、吉岡氏の鶴崎城では、留守を守っていた妙林尼が堀や落とし穴を作り、3か月にわたって必死に抵抗しました。

3. 宗麟の最期

宗麟は、府内から臼杵の丹生島城に移っていました。島津軍が臼杵に近づくと、領民を城内に避難させ、大砲(国崩)を使って迎え撃ちました。

その後、退いていた大友軍が態勢を整えて府内にもどり、秀吉が大軍をひきいて九州に着いたという知らせが伝わると、島津軍は薩摩にもどっていきましました。そしてまもなく、島津氏は秀吉に降伏しました。

この戦いの後、大友氏は豊後一国の支配を任されることになりました。しかし1587年、宗麟は病にたおれ、津久見で57年の生涯を終えました。



▲ 宗麟の墓のモニュメント (津久見市)

《大友氏の山城「高崎城」》

宗麟の時代には、大分市内にいくつも大友氏の城がありました。特に二ホンザルで有名な高崎山(628m)の山頂には、大きな山城があり、今でも土を積み上げた土塁、敵の侵入を防ぐための堀切や竪堀などのしかけの跡が残っています。



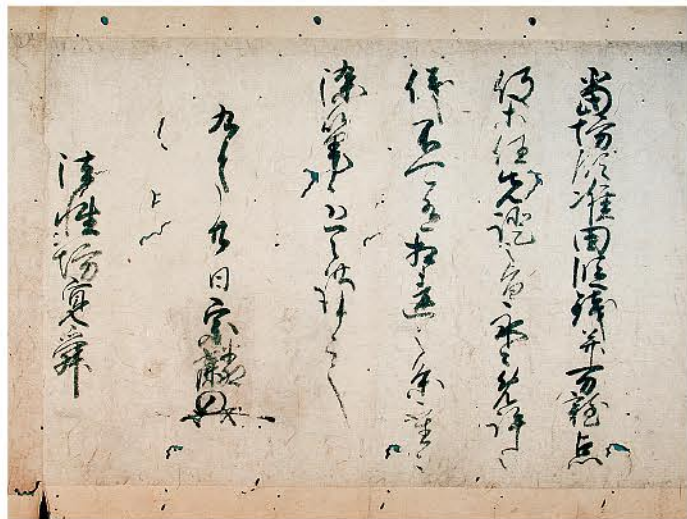
▼ 高崎城復元想像図



資料2 府内の人々と宗教



▲ 柞原八幡宮の放生会 (柞原八幡宮浜之市仮宮)



▲ 宗麟が円寿寺(上野丘)に送った手紙

2. 人々の願い

府内のまちの発掘調査では、人々のいのりに関係したものがたくさん出土しています。これらは災害や病気をふせぎ、幸せになろうとする人々の願いを表しています。



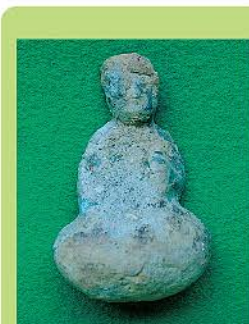
犬型土製品

犬は子どもをたくさん産むことから安産のお守りといわれています。



猿型木製品

猿は知能が高いことから縁起のよい遊び道具や飾りとして使われました。



懸仏

仏像の形を作り、柱や壁などにかけていのりしました。



持念仏

身につけたり、部屋に置いたりしていのりしました。

1. 大友氏と寺社

府内のまちには、大友氏が代々、仏教の教えを大切にすることから、万寿寺などたくさんのお寺がありました。宗麟も有名な僧を京都から招いて、新しい寺を建てました。またこの頃、自然災害や、はやり病が多かったことから、それらをふりはらうための祭り(弥栄神社の祇園会)や殺生をいましめるための祭り(柞原八幡宮の放生会)がにぎやかにおこなわれていました。これらの祭りには、宗麟も参加しました。

※1 「宗麟」という名前は、出家(髪をそって仏の道に入ること)した時の名前です。もとの名前は「義鎮」といいました。

3. キリスト教の広がり

宗麟がキリスト教の布教を許可し、宣教師の熱心な活動が始まると、府内を中心に信者は増えていきました。教会も府内のほか、大在地区や判田地区にも建てられました。

そしてその動きは、臼杵市や竹田市などにも広がっていきました。

1587年には、「日本国内のキリスト教の信者数が20万人前後、そのうち5万人が豊後にいた」と宣教師の報告書に書かれています。

4. キリスト教の取り締まり

江戸時代になると、幕府はキリスト教を禁止しました。そのため多くの信者は捕えられ、キリスト教を信じることをやめるように命令されました。

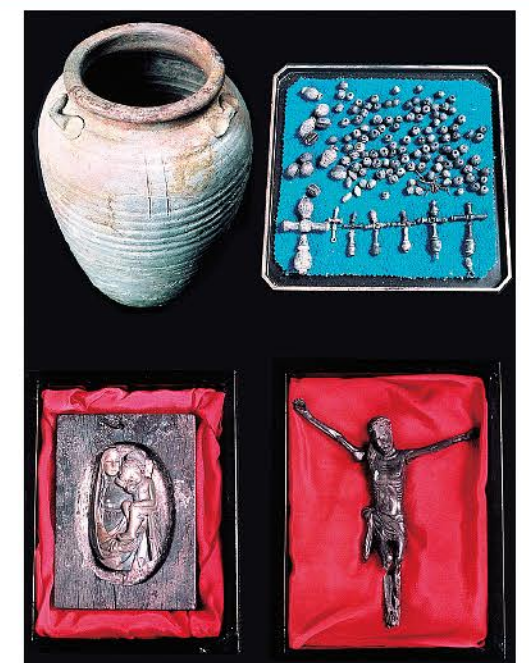
1637年におこった島原・天草一揆のあとには、さらに取り締まりが厳しくなり、信じることをやめないと死刑または投獄(牢屋に入れられる)となりました。大分市内の高田・葛木・丹生地区から始まった取り締まりは、やがて豊後全体に広がり、捕えられた人は1000人を超えたとされています。この事件は「豊後崩れ」と呼ばれました。

キリシタン殉教の地の碑 ▶

(キリシタン殉教記念公園)
葛木地区では200人が捕えられ、命を奪われたとされています。



▲ 1585年頃の府内とその周辺の信者数 (フロイスの報告より)



▲ 発見されたキリシタン遺物

1965年に丹生地区の畑から発見された壺(左上)の中には、キリスト教のいのりに使われたものがたくさん入っていました。



資料3 府内のまち

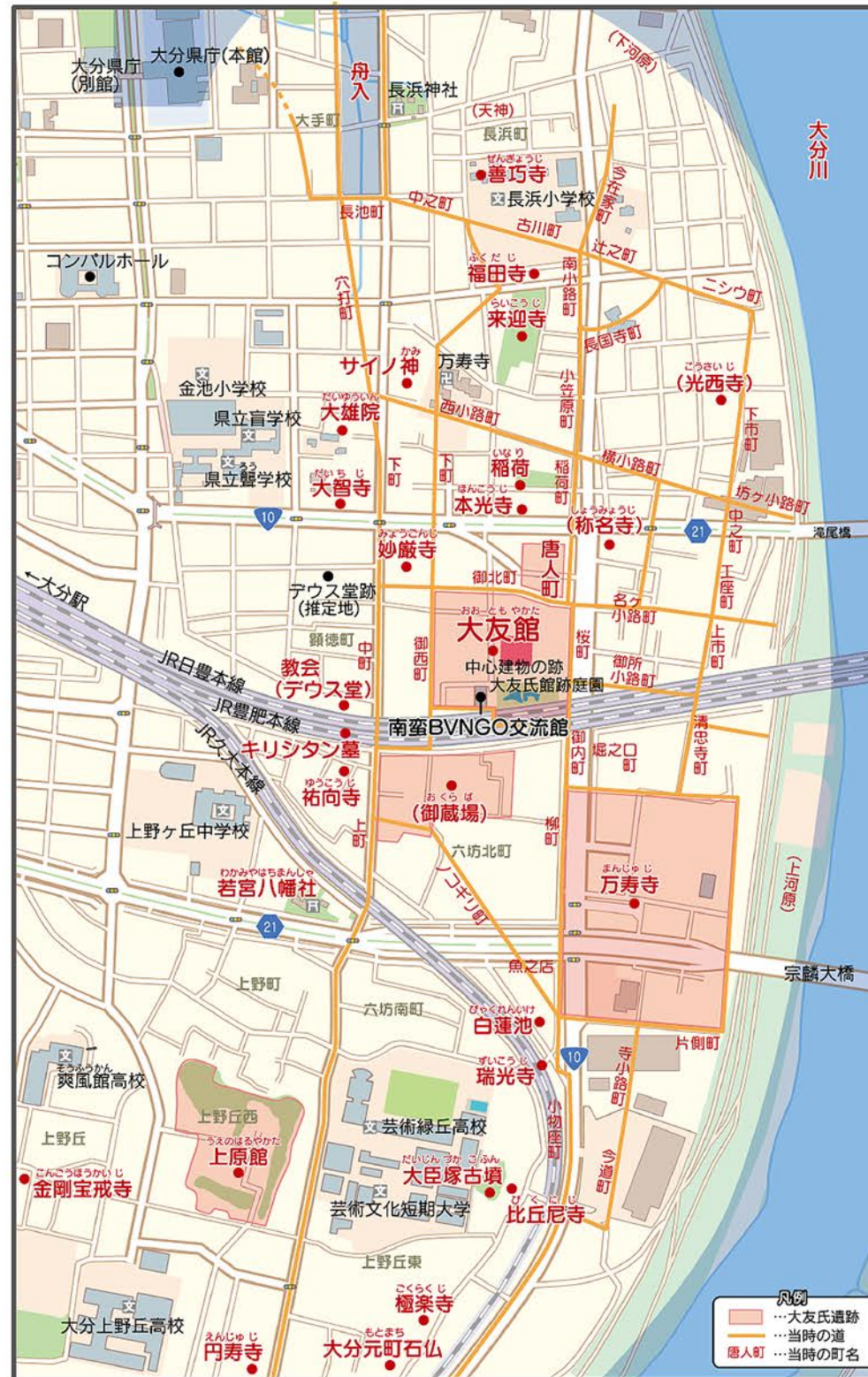
1. 大友氏と府内

相模(神奈川県)に住んでいた大友氏は、鎌倉幕府を開いた源頼朝から豊後国の守護に任命され、その後400年にわたって豊後国を治めました。

21代宗麟のころには、大分川の西側、今の^{もと}大分市元町、^{けんとく}顕徳町、^{にしき}錦町、^{くわい}長浜町一帯に「府内のまち」がつくられていました。まちは格子状に区画され、大友館を中心にして万寿寺など多くの寺社が建てられ、40あまりの町に5000軒ほどの家々が建ち並んでいました。

2. 大友氏遺跡

1996年から始まった発掘調査では、様々な出土品とともに館の中心となる建物の跡や庭園の跡などが発見されました。その後、館の周辺もあわせて調査を進めた結果、大友館・万寿寺・御蔵場・上原館・唐人町の遺跡が「大友氏遺跡」として国の文化財に指定(国指定史跡)されました。現在は遺跡を歴史公園とする整備を進めており、すでに大友館の庭園部分は当時の姿に再現され、見学できるようになっています。今後も歴史公園の完成に向けて発掘調査や整備が続けられていきます。



▲ 大友氏館跡庭園



▲ 庭園にあった大きな池の跡の発掘調査風景



▲ 館の中心となる大型建物の跡

木製の遊び道具



コマ



ぎつちょうの玉



将棋のこま



はこいた
羽子板

食べ物に関するもの



うるし
漆わん



はし



マグロの骨



牛の頭骨

商人や職人に関するもの



分銅



鉄砲の弾



カギ
はさみ
とりべ
(溶かした金属を入れる土製容器)

資料4 大友氏と大分市



資料5 大友宗麟の生涯

年表 大友氏に關係すること 国内の主な動き

- 1530

大友義鑑の長男として塩法師丸(宗麟)が生まれる
- 1540

足利將軍から名前をもらい、「義鎮」と名のる(10歳)
- 1550

「二階崩れの変」で父を失い、あとを継ぐ(20歳)
- 1551

ザビエルが府内に来る
- 1555

アルメイダが育児院を建てる
- 1557

アルメイダが府内病院を建てる
- 1559

北部九州6国の守護となる(29歳)
- 1562

義鎮,出家し「宗麟」と名のる(32歳)
- 1578

宗麟がキリスト教に入る(48歳)
日向(高城・耳川)で島津軍と戦い,敗れる
- 1581

府内にコレジオができる
- 1582

伊東マンショらがヨーロッパに向う
- 1586

島津軍が豊後に侵入する
- 1587

宗麟,死去(57歳)
- 1592

息子の義統,秀吉に従い朝鮮へ出陣する
- 1593

義統,秀吉により豊後の領地を没収される
- 1534

織田信長が生まれる
- 1536

豊臣秀吉が生まれる
- 1542

徳川家康が生まれる
- 1543

鉄砲が日本に伝わる
- 1549

ザビエルが鹿児島に来て,
キリスト教を伝える
- 1573

信長,室町幕府をほろぼす
- 1582

信長,「本能寺の変」で自害する
- 1590

秀吉,天下を統一する
- 1592・97

秀吉,朝鮮へ2度兵を送る
- 1598

秀吉,死去する
- 1600

家康,関ヶ原の戦いに勝つ
- 1603

家康,江戸幕府を開く



▲ 大友宗麟画像 大徳寺瑞峯院(京都)に伝えられる画像

大友氏の系図

- 初代

能直

…豊後国の守護となる
- 3代

頼泰

…幕府の命令を受け元軍と戦う
- 8代

氏時

…高崎山に城を築く
- 15代

親繁

…遣明船を派遣して中国と貿易をおこなう
- 20代

義鑑

…宗麟の父,「二階崩れの変」で命をおとす
- 21代

宗麟
- 22代

義統

…宗麟の息子,朝鮮へ出陣する

編集委員 ()は平成25年当時の所属

豊田寛三 (別府大学)
鹿毛敏夫 (国立新居浜工業高等専門学校・東京大学史料編纂所)
原 一美 (大分市教育委員会)
仲元研二 (大分市立西の台小学校)
加藤恵子 (大分市教育委員会)

執筆作業部会

大分市教育委員会
原 一美 三浦亨二 小野富広 岩本浩典 植木和美
志賀良史 後藤真治 坂本浩二
大分市小学校教育研究会社会科部会
若杉健志 川崎 亨

史料所蔵者・写真提供者 (敬称略)

ヴァイセンシュタイン城 円寿寺 大分県教育庁埋蔵文化財センター
大分県立先哲史料館 大分市医師会立アルメイダ病院 大分市歴史資料館
神戸市立博物館 (原史料) 金剛宝戒寺 勝光寺 政秀寺 大徳寺瑞峯院
鶴崎おどり保存会 日本二十六聖人記念館 藤田晴一 宮地泰彦 柞原八幡宮

事務局

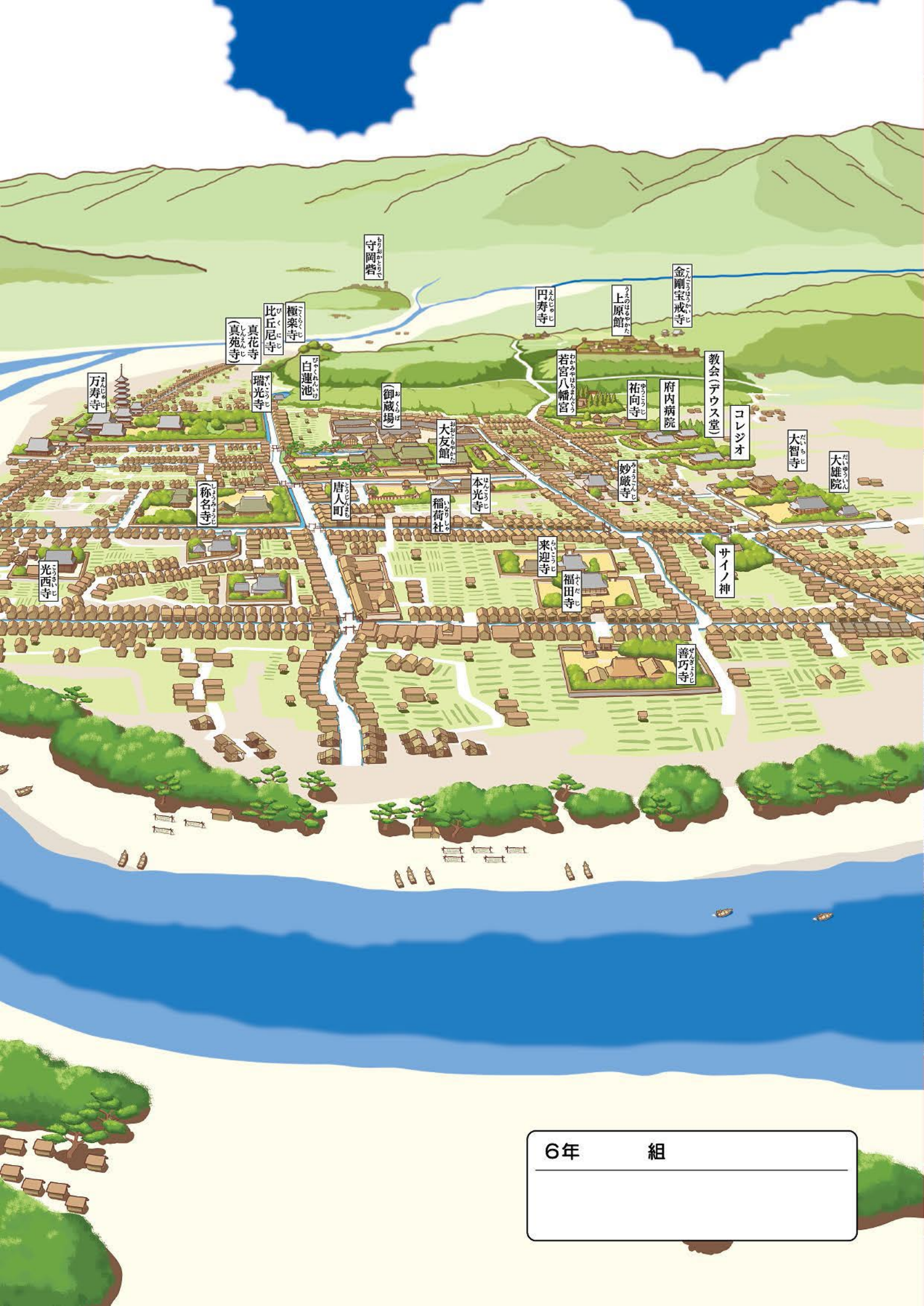
大分市教育委員会教育部 文化財課 大分市歴史資料館

地図は、国土地理院発行の20万分1地勢図及び
1万分の1地形図を参考に作成した。

6年 郷土学習資料

『府内から世界へ 大友宗麟』

初 版 2013(平成25)年5月31日
第13版 2025(令和7)年5月1日
発行者 大分市教育委員会
〒870-8504
大分市荷揚町2番31号
文化財課 TEL097-537-5682(直通)



6年 組